

岐南中と各務原・稲羽中 募金活動

元気と明るさ 届けたい

能登と 思いはひとつ



駅の利用客に募金を呼びかける金田さん(左)ら。岐南町の名鉄岐南駅で

能登半島地震の被災地への支援が全国各地で広がる中、岐阜近郊地域の中学生たちも学校内や駅などで募金箱を掲げ、一日も早い復興を願った。

(中根真依、尾林太郎)



募金活動をする永井さん(左)ら。各務原市稲羽中で

岐南町の岐南中学校の生徒たちは同日、名鉄岐南駅のほか、町内三つの小学校前で善意を募った。生徒会長の2年金田ゆめみさん(13)が、連日報じられる被災地の様子に胸を痛めて自ら企画し、ほかの生徒たちに呼びかけた。

教諭から「今回の地震についてしっかり勉強してから募金活動をして」とアド

被災地の様子知り 生徒ら企画

バイスを受け、事前学習を実施。被害の大きさや避難生活の過酷さなどを学び、「私たちも大きな地震に遭ったらどう動くべきかを考えるきっかけになった」と振り返る。早速、家に防災グッズを置くよう両親に伝えたといい。

この日の活動には、全校生徒の2割近い約130人が参加。「岐阜でも強い揺れで怖かったが、能登の人たちはもっとつらい思いをしている。元気と明るさを届けたい」と話した。今後、生徒会が中心となって被災地支援の活動を企画するという。

各務原市の稲羽中学校では1月23、25、30日と2月は1月23、25、30日と2月

集まった11万2593円

は、市を通じて日赤に送るという。